

|      |          |       |          |
|------|----------|-------|----------|
| 科目名称 | スタディスキルズ | 授業コード | 10002570 |
| 担当教員 | 津田 徹     |       |          |
| 単位数  | 1        | 授業形態  | 講義       |
| 年次   | 1        | 開講年度  | 2023     |
| 関連資格 |          | 科目分類  | 学修基礎     |
|      |          | 開講学期  | 前期       |

|                  |   |
|------------------|---|
| 授業実施方法           | 対面授業  |
| 使用するアプリ等         | KDU ポータル、Teams  |
| 履修制限等            | 2023 年度入学生  |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | ①大学や大学生活に適応し、不安を解消する。<br>②大学で必要な最低限の学習スキル、著作権や法律など、社会的な知識・スキルを獲得する。   |
| 授業計画の概要          | 高校から大学へ、「生徒」から「学生」へと円滑に移行し、また豊かな学生生活を送ることができるように支援する、講義を中心とした授業の実施。   |
| 授業計画             | 1：「芸工大」講座、大学で学ぶとは①（学生生活の心得）<br>2：大学で学ぶとは②（学習の技術）<br>3：大学で学ぶとは③（安全、健康管理）<br>4：大学で学ぶとは④（コミュニケーションの技術）<br>5：文献の探し方<br>6：知的財産権入門<br>7：情報リテラシー<br>8：キャリアデザイン |
| 実務経験のある教員        |   |
| 授業時間外学習          | 「大学生とは？」「将来の夢は・・・」等、現在の自分の考えをまとめておくこと   |
| 評価方法             | 毎回の授業で提出するコメントシート・課題による評価。  |
| 指導方法             |   |
| 使用テキスト           |   |
| 参考テキスト・URL       | 都度、プリントを配布。   |
| 各自準備物            |   |
| 実習費              |   |
| その他              | 毎回、Forms を利用した課題提出があります。必ず示された期日までに提出するようにしてください。   |

|      |            |       |          |
|------|------------|-------|----------|
| 科目名称 | 日本語表現 I A① | 授業コード | 10106012 |
| 担当教員 | 小松 麻美      |       |          |
| 単位数  | 2          | 授業形態  | 講義       |
| 年次   | 1          | 開講年度  | 2023     |
| 関連資格 |            | 科目分類  | 必修、学修基礎  |
|      |            | 開講学期  | 前期       |

|                  |   |
|------------------|---|
| 授業実施方法           | 対面授業<br>※原則、対面とするが、コロナ禍の状況によっては遠隔授業で対応する。   |
| 使用するアプリ等         | KDU ポータル及び Teams<br>※必要に応じて担当教員からツール（アプリ）を指定する。   |
| 履修制限等            | 予備登録実施  |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | 目的：基本的な日本語の文章表現のルールを学び、日本語の文章力を高めることを目的とする。日本語で表現するための基本として日本語の書き言葉の特徴を把握し、論理的に書く技法の初歩を身につける。<br>目標：<br>・書き言葉と話し言葉の違いを把握し、適切に使い分けられる。<br>・文章を作成する際に、論理的構成に配慮する習慣を身につける。<br>・文章でものごとを客観的に説明できる。<br>・立場を明確にし、異なる視点を取り入れ自らの意見を述べるができる。<br>・待遇表現の基本的ルールを理解し使用できる。   |
| 授業計画の概要          | 身近なテーマから少しずつトレーニングや実践の段階を経て、大学の学びに必要な文章表現力をつけ、読む人に伝わりやすい文章を書けるようになることを目指す。この授業は日本語表現Ⅱおよび文章表現法の基礎ともなるものである。授業の進め方は担当教員から説明する。  |
| 授業計画             | 1：オリエンテーション、紹介文①文章設計図作成<br>2：紹介文②文章作成<br>3：ことばのドリル①文体<br>4：ことばのドリル②整った表現<br>5：ことばのドリル③書式<br>6：ことばのドリル④箇条書きから文章へ<br>7：意見文①文章設計図作成<br>8：意見文②文章作成<br>9：ことばのドリル⑤まとめ<br>10：before/after の文章①文章設計図作成<br>11：before/after の文章②文章作成<br>12：対立項と時間軸のある文章①文章設計図作成<br>13：対立項と時間軸のある文章②文章作成<br>14：敬語のドリル①基本的ルール<br>15：敬語のドリル②練習 |
| 実務経験のある教員        |   |
| 授業時間外学習          | 予習（約2時間）：授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。また、新しい漢字が書けるように日頃から意識しておくこと。<br>復習（約2時間）：講義後も授業内容の理解を深めるために当日の概要・ポイントなどを整理するなど、復習に励むこと。また、講義で課された小レポート等に取り組み提出すること。  |
| 評価方法             | 課題提出物 60%、確認テスト 40%。欠席6回以上でE評価になる。  |
| 指導方法             | 提出された課題を採点し、コメントをつけて返却する。   |
| 使用テキスト           | 『大学生のための文章表現 練習帳（第2版）』、坂東実子、国書刊行会、2021<br>※電子書籍の購入も可  |
| 参考テキスト・URL       |   |
| 各自準備物            | 電子辞書等   |
| 実習費              |   |
| その他              | ・状況によっては、初回授業に関する内容を大学アドレスメール（Outlook）で行うこともあるため、第1回授業日の前日にメールを受信できるようにしておくこと。<br>・能力別クラスを運営しており、進捗進度等は異なるため、上記授業内容はクラスの進度に合わせて変更する可能性がある。  |

|      |            |      |       |          |         |
|------|------------|------|-------|----------|---------|
| 科目名称 | 日本語表現 I A② |      | 授業コード | 10206012 |         |
| 担当教員 | 角田 宏子      |      |       |          |         |
| 単位数  | 2          | 授業形態 | 講義    | 科目分類     | 必修、学修基礎 |
| 年次   | 1          | 開講年度 | 2023  | 開講学期     | 前期      |
| 関連資格 |            |      |       |          |         |

|                  |   |
|------------------|---|
| 授業実施方法           | 対面授業<br>※原則、対面とするが、コロナ禍の状況によっては遠隔授業で対応する。   |
| 使用するアプリ等         | KDU ポータル及び Teams<br>※必要に応じて担当教員からツール（アプリ）を指定する。   |
| 履修制限等            | 予備登録実施  |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | 目的：基本的な日本語の文章表現のルールを学び、日本語の文章力を高めることを目的とする。日本語で表現するための基本として日本語の書き言葉の特徴を把握し、論理的に書く技法の初歩を身につける。<br>目標：<br>・書き言葉と話し言葉の違いを把握し、適切に使い分けられる。<br>・文章を作成する際に、論理的構成に配慮する習慣を身につける。<br>・文章でものごとを客観的に説明できる。<br>・立場を明確にし、異なる視点を取り入れ自らの意見を述べるができる。<br>・待遇表現の基本的ルールを理解し使用できる。   |
| 授業計画の概要          | 身近なテーマから少しずつトレーニングや実践の段階を経て、大学の学びに必要な文章表現力をつけ、読む人に伝わりやすい文章を書けるようになることを目指す。この授業は日本語表現Ⅱおよび文章表現法の基礎ともなるものである。授業の進め方は担当教員から説明する。  |
| 授業計画             | 1：オリエンテーション、紹介文①文章設計図作成<br>2：紹介文②文章作成<br>3：ことばのドリル①文体<br>4：ことばのドリル②整った表現<br>5：ことばのドリル③書式<br>6：ことばのドリル④箇条書きから文章へ<br>7：意見文①文章設計図作成<br>8：意見文②文章作成<br>9：ことばのドリル⑤まとめ<br>10：before/after の文章①文章設計図作成<br>11：before/after の文章②文章作成<br>12：対立項と時間軸のある文章①文章設計図作成<br>13：対立項と時間軸のある文章②文章作成<br>14：敬語のドリル①基本的ルール<br>15：敬語のドリル②練習 |
| 実務経験のある教員        |   |
| 授業時間外学習          | 予習（約2時間）：授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。また、新しい漢字が書けるように日頃から意識しておくこと。<br>復習（約2時間）：講義後も授業内容の理解を深めるために当日の概要・ポイントなどを整理するなど、復習に励むこと。また、講義で課された小レポート等に取り組み提出すること。  |
| 評価方法             | 課題提出物 60%、確認テスト 40%。欠席6回以上でE評価になる。  |
| 指導方法             | 提出された課題を採点し、コメントをつけて返却する。   |
| 使用テキスト           | 『大学生のための文章表現 練習帳（第2版）』、坂東実子、国書刊行会、2021<br>※電子書籍の購入も可  |
| 参考テキスト・URL       |   |
| 各自準備物            | 電子辞書等   |
| 実習費              |   |
| その他              | ・状況によっては、初回授業に関する内容を大学アドレスメール（Outlook）で行うこともあるため、第1回授業日の前日にメールを受信できるようにしておくこと。<br>・2022年度生は、能力別クラスを運営しており、進捗進度等は異なるため、上記授業内容はクラスの進度に合わせて変更する可能性がある。   |

|      |                    |      |      |       |          |
|------|--------------------|------|------|-------|----------|
| 科目名称 | 日本語表現 I A③(留学生クラス) |      |      | 授業コード | 12306012 |
| 担当教員 | 小松 麻美              |      |      |       |          |
| 単位数  | 2                  | 授業形態 | 講義   | 科目分類  | 必修、学修基礎  |
| 年次   | 1                  | 開講年度 | 2023 | 開講学期  | 前期       |
| 関連資格 |                    |      |      |       |          |

|                  |  |
|------------------|--|
| 授業実施方法           | 対面授業<br>※原則、対面とするが、コロナ禍の状況によっては遠隔授業で対応する。  |
| 使用するアプリ等         | KDU ポータル及び Teams<br>※必要に応じて担当教員からツール(アプリ)を指定する。  |
| 履修制限等            | 予備登録実施   |
| 授業の目的と到達目標(学習成果) | 目的: 基本的な日本語の文章表現のルールを学び、日本語の文章力を高めることを目的とする。日本語で表現するための基本として日本語の書き言葉の特徴を把握し、論理的に書く技法の初歩を身につける。<br>目標:<br>・書き言葉と話し言葉の違いを把握し、適切に使い分けられる。<br>・文章を作成する際に、論理的構成に配慮する習慣を身につける。<br>・文章でものごとを客観的に説明できる。<br>・立場を明確にし、異なる視点を取り入れ自らの意見を述べるができる。<br>・待遇表現の基本的ルールを理解し使用できる。   |
| 授業計画の概要          | 身近なテーマから少しずつトレーニングや実践の段階を経て、大学の学びに必要な文章表現力をつけ、読む人に伝わりやすい文章を書けるようになることを目指す。この授業は日本語表現Ⅱおよび文章表現法の基礎ともなるものである。授業の進め方は担当教員から説明する。   |
| 授業計画             | 1: オリエンテーション、紹介文①文章設計図作成<br>2: 紹介文②文章作成<br>3: ことばのドリル①文体<br>4: ことばのドリル②整った表現<br>5: ことばのドリル③書式<br>6: ことばのドリル④箇条書きから文章へ<br>7: 意見文①文章設計図作成<br>8: 意見文②文章作成<br>9: ことばのドリル⑤まとめ<br>10: before/after の文章①文章設計図作成<br>11: before/after の文章②文章作成<br>12: 対立項と時間軸のある文章①文章設計図作成<br>13: 対立項と時間軸のある文章②文章作成<br>14: 敬語のドリル①基本的ルール<br>15: 敬語のドリル②練習 |
| 実務経験のある教員        |  |
| 授業時間外学習          | 予習(約2時間): 授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。また、新しい漢字が書けるように日頃から意識しておくこと。<br>復習(約2時間): 講義後も授業内容の理解を深めるために当日の概要・ポイントなどを整理するなど、復習に励むこと。また、講義で課された小レポートなどに取り組み提出すること。  |
| 評価方法             | 課題提出物 60%、確認テスト 40%。欠席6回以上でE評価になる。   |
| 指導方法             | 提出された課題を採点し、コメントをつけて返却する。  |
| 使用テキスト           | 『大学生のための文章表現 練習帳(第2版)』、坂東実子、国書刊行会、2021<br>※電子書籍の購入も可   |
| 参考テキスト・URL       | 『おしゃべりしながら書くことを楽しむ中級作文』杉浦千里、木戸光子著、凡人社、2020(留学生クラスのみ)   |
| 各自準備物            | 電子辞書等  |
| 実習費              |  |
| その他              | ・状況によっては、初回授業に関する内容を大学アドレスメール(Outlook)で行うこともあるため、第1回授業日の前日にメールを受信できるようにしておくこと。<br>・2023年度生は、能力別クラスを運営しており、進捗進度等は異なるため、上記授業内容はクラスの進度に合わせて変更する可能性がある。  |

|      |                      |      |      |       |          |
|------|----------------------|------|------|-------|----------|
| 科目名称 | 日本語表現 I A④⑤ (留学生クラス) |      |      | 授業コード | 12406012 |
| 担当教員 | 新 聖子                 |      |      |       |          |
| 単位数  | 2                    | 授業形態 | 講義   | 科目分類  | 必修、学修基礎  |
| 年次   | 1                    | 開講年度 | 2023 | 開講学期  | 前期       |
| 関連資格 |                      |      |      |       |          |

|                  |   |
|------------------|---|
| 授業実施方法           | 対面授業<br>※原則、対面とするが、コロナ禍の状況によっては遠隔授業で対応する。   |
| 使用するアプリ等         | KDU ポータル及び Teams<br>※必要に応じて担当教員からツール（アプリ）を指定する。   |
| 履修制限等            | 予備登録実施  |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | 目的：基本的な日本語の文章表現のルールを学び、日本語の文章力を高めることを目的とする。日本語で表現するための基本として日本語の書き言葉の特徴を把握し、論理的に書く技法の初歩を身につける。<br>目標：<br>・書き言葉と話し言葉の違いを把握し、適切に使い分けられる。<br>・文章を作成する際に、論理的構成に配慮する習慣を身につける。<br>・文章でものごとを客観的に説明できる。<br>・立場を明確にし、異なる視点を取り入れ自らの意見を述べるができる。<br>・待遇表現の基本的ルールを理解し使用できる。   |
| 授業計画の概要          | 身近なテーマから少しずつトレーニングや実践の段階を経て、大学の学びに必要な文章表現力をつけ、読む人に伝わりやすい文章を書けるようになることを目指す。この授業は日本語表現Ⅱおよび文章表現法の基礎ともなるものである。授業の進め方は担当教員から説明する。  |
| 授業計画             | 1：オリエンテーション、紹介文①文章設計図作成<br>2：紹介文②文章作成<br>3：ことばのドリル①文体<br>4：ことばのドリル②整った表現<br>5：ことばのドリル③書式<br>6：ことばのドリル④箇条書きから文章へ<br>7：意見文①文章設計図作成<br>8：意見文②文章作成<br>9：ことばのドリル⑤まとめ<br>10：before/after の文章①文章設計図作成<br>11：before/after の文章②文章作成<br>12：対立項と時間軸のある文章①文章設計図作成<br>13：対立項と時間軸のある文章②文章作成<br>14：敬語のドリル①基本的ルール<br>15：敬語のドリル②練習 |
| 実務経験のある教員        |   |
| 授業時間外学習          | 予習（約2時間）：授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。また、新しい漢字が書けるように日頃から意識しておくこと。<br>復習（約2時間）：講義後も授業内容の理解を深めるために当日の概要・ポイントなどを整理するなど、復習に励むこと。また、講義で課された小レポート等に取り組み提出すること。  |
| 評価方法             | 課題提出物 60%、確認テスト 40%。欠席6回以上でE評価になる。  |
| 指導方法             | 提出された課題を採点し、コメントをつけて返却する。   |
| 使用テキスト           | 『大学生のための文章表現 練習帳（第2版）』、坂東実子、国書刊行会、2021<br>※電子書籍の購入も可  |
| 参考テキスト・URL       | 『おしゃべりしながら書くことを楽しむ中級作文』杉浦千里、木戸光子著、凡人社、2020（留学生クラスのみ）  |
| 各自準備物            | 電子辞書等   |
| 実習費              |   |
| その他              | ・状況によっては、初回授業に関する内容を大学アドレスメール（Outlook）で行うこともあるため、第1回授業日の前日にメールを受信できるようにしておくこと。<br>・能力別クラスを運営しており、進捗進度等は異なるため、上記授業内容はクラスの進度に合わせて変更する可能性がある。  |

|      |                |      |      |       |          |
|------|----------------|------|------|-------|----------|
| 科目名称 | 日本語表現 I B①③⑤⑦⑩ |      |      | 授業コード | 10306012 |
| 担当教員 | 角田 宏子          |      |      |       |          |
| 単位数  | 2              | 授業形態 | 講義   | 科目分類  | 必修、学修基礎  |
| 年次   | 1              | 開講年度 | 2023 | 開講学期  | 前期       |
| 関連資格 |                |      |      |       |          |

|                  |   |
|------------------|---|
| 授業実施方法           | 対面授業<br>※原則、対面とするが、コロナ禍の状況によっては遠隔授業で対応する。   |
| 使用するアプリ等         | KDU ポータル及び Teams<br>※必要に応じて担当教員からツール（アプリ）を指定する。   |
| 履修制限等            | 予備登録実施  |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | 目的：基本的な日本語の文章表現のルールを学び、日本語の文章力を高めることを目的とする。日本語で表現するための基本として日本語の書き言葉の特徴を把握し、論理的に書く技法の初歩を身につける。<br>目標：<br>・書き言葉と話し言葉の違いを把握し、適切に使い分けられる。<br>・文章を作成する際に、論理的構成に配慮する習慣を身につける。<br>・文章でものごとを客観的に説明できる。<br>・立場を明確にし、異なる視点を取り入れ自らの意見を述べるができる。<br>・待遇表現の基本的ルールを理解し使用できる。   |
| 授業計画の概要          | 身近なテーマから少しずつトレーニングや実践の段階を経て、大学の学びに必要な文章表現力をつけ、読む人に伝わりやすい文章を書けるようになることを目指す。この授業は日本語表現Ⅱおよび文章表現法の基礎ともなるものである。授業の進め方は担当教員から説明する。  |
| 授業計画             | 1：オリエンテーション、紹介文①文章設計図作成<br>2：紹介文②文章作成<br>3：ことばのドリル①文体<br>4：ことばのドリル②整った表現<br>5：ことばのドリル③書式<br>6：ことばのドリル④箇条書きから文章へ<br>7：意見文①文章設計図作成<br>8：意見文②文章作成<br>9：ことばのドリル⑤まとめ<br>10：before/after の文章①文章設計図作成<br>11：before/after の文章②文章作成<br>12：対立項と時間軸のある文章①文章設計図作成<br>13：対立項と時間軸のある文章②文章作成<br>14：敬語のドリル①基本的ルール<br>15：敬語のドリル②練習 |
| 実務経験のある教員        |   |
| 授業時間外学習          | 予習（約2時間）：授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。また、新しい漢字が書けるように日頃から意識しておくこと。<br>復習（約2時間）：講義後も授業内容の理解を深めるために当日の概要・ポイントなどを整理するなど、復習に励むこと。また、講義で課された小レポートなどに取り組み提出すること。   |
| 評価方法             | 課題提出物 60%、確認テスト 40%。欠席6回以上でE評価になる。  |
| 指導方法             | 提出された課題を採点し、コメントをつけて返却する。   |
| 使用テキスト           | 『大学生のための文章表現 練習帳（第2版）』、坂東実子、国書刊行会、2021<br>※電子書籍の購入も可  |
| 参考テキスト・URL       |   |
| 各自準備物            | 電子辞書等   |
| 実習費              |   |
| その他              | ・状況によっては、初回授業に関する内容を大学アドレスメール（Outlook）で行うこともあるため、第1回授業日の前日にメールを受信できるようにしておくこと。<br>・2023年度生は、能力別クラスを運営しており、進捗進度等は異なるため、上記授業内容はクラスの進度に合わせて変更する可能性がある。   |

|      |             |      |       |          |         |
|------|-------------|------|-------|----------|---------|
| 科目名称 | 日本語表現 I B②④ |      | 授業コード | 10406012 |         |
| 担当教員 | 新 聖子        |      |       |          |         |
| 単位数  | 2           | 授業形態 | 講義    | 科目分類     | 必修、学修基礎 |
| 年次   | 1           | 開講年度 | 2023  | 開講学期     | 前期      |
| 関連資格 |             |      |       |          |         |

|                  |   |
|------------------|---|
| 授業実施方法           | 対面授業<br>※原則、対面とするが、コロナ禍の状況によっては遠隔授業で対応する。   |
| 使用するアプリ等         | KDU ポータル及び Teams<br>※必要に応じて担当教員からツール（アプリ）を指定する。   |
| 履修制限等            | 予備登録実施  |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | 目的：基本的な日本語の文章表現のルールを学び、日本語の文章力を高めることを目的とする。日本語で表現するための基本として日本語の書き言葉の特徴を把握し、論理的に書く技法の初歩を身につける。<br>目標：<br>・書き言葉と話し言葉の違いを把握し、適切に使い分けられる。<br>・文章を作成する際に、論理的構成に配慮する習慣を身につける。<br>・文章でものごとを客観的に説明できる。<br>・立場を明確にし、異なる視点を取り入れ自らの意見を述べるができる。<br>・待遇表現の基本的ルールを理解し使用できる。   |
| 授業計画の概要          | 身近なテーマから少しずつトレーニングや実践の段階を経て、大学の学びに必要な文章表現力をつけ、読む人に伝わりやすい文章を書けるようになることを目指す。この授業は日本語表現Ⅱおよび文章表現法の基礎ともなるものである。授業の進め方は担当教員から説明する。  |
| 授業計画             | 1：オリエンテーション、紹介文①文章設計図作成<br>2：紹介文②文章作成<br>3：ことばのドリル①文体<br>4：ことばのドリル②整った表現<br>5：ことばのドリル③書式<br>6：ことばのドリル④箇条書きから文章へ<br>7：意見文①文章設計図作成<br>8：意見文②文章作成<br>9：ことばのドリル⑤まとめ<br>10：before/after の文章①文章設計図作成<br>11：before/after の文章②文章作成<br>12：対立項と時間軸のある文章①文章設計図作成<br>13：対立項と時間軸のある文章②文章作成<br>14：敬語のドリル①基本的ルール<br>15：敬語のドリル②練習 |
| 実務経験のある教員        |   |
| 授業時間外学習          | 予習（約2時間）：授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。また、新しい漢字が書けるように日頃から意識しておくこと。<br>復習（約2時間）：講義後も授業内容の理解を深めるために当日の概要・ポイントなどを整理するなど、復習に励むこと。また、講義で課された小レポートなどに取り組み提出すること。   |
| 評価方法             | 課題提出物 60%、確認テスト 40%。欠席6回以上でE評価になる。  |
| 指導方法             | 提出された課題を採点し、コメントをつけて返却する。   |
| 使用テキスト           | 『大学生のための文章表現 練習帳（第2版）』、坂東実子、国書刊行会、2021<br>※電子書籍の購入も可  |
| 参考テキスト・URL       |   |
| 各自準備物            | 電子辞書等   |
| 実習費              |   |
| その他              | ・状況によっては、初回授業に関する内容を大学アドレスメール（Outlook）で行うこともあるため、第1回授業日の前日にメールを受信できるようにしておくこと。<br>・2023年度生は、能力別クラスを運営しており、進捗進度等は異なるため、上記授業内容はクラスの進度に合わせて変更する可能性がある。   |

|      |             |      |       |          |         |
|------|-------------|------|-------|----------|---------|
| 科目名称 | 日本語表現 I B⑥⑨ |      | 授業コード | 10806012 |         |
| 担当教員 | 小松 麻美       |      |       |          |         |
| 単位数  | 2           | 授業形態 | 講義    | 科目分類     | 必修、学修基礎 |
| 年次   | 1           | 開講年度 | 2023  | 開講学期     | 前期      |
| 関連資格 |             |      |       |          |         |

|                  |   |
|------------------|---|
| 授業実施方法           | 対面授業<br>※原則、対面とするが、コロナ禍の状況によっては遠隔授業で対応する。   |
| 使用するアプリ等         | KDU ポータル及び Teams<br>※必要に応じて担当教員からツール（アプリ）を指定する。   |
| 履修制限等            | 予備登録実施  |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | 目的：基本的な日本語の文章表現のルールを学び、日本語の文章力を高めることを目的とする。日本語で表現するための基本として日本語の書き言葉の特徴を把握し、論理的に書く技法の初歩を身につける。<br>目標：<br>・書き言葉と話し言葉の違いを把握し、適切に使い分けられる。<br>・文章を作成する際に、論理的構成に配慮する習慣を身につける。<br>・文章でものごとを客観的に説明できる。<br>・立場を明確にし、異なる視点を取り入れ自らの意見を述べるができる。<br>・待遇表現の基本的ルールを理解し使用できる。   |
| 授業計画の概要          | 身近なテーマから少しずつトレーニングや実践の段階を経て、大学の学びに必要な文章表現力をつけ、読む人に伝わりやすい文章を書けるようになることを目指す。この授業は日本語表現Ⅱおよび文章表現法の基礎ともなるものである。授業の進め方は担当教員から説明する。  |
| 授業計画             | 1：オリエンテーション、紹介文①文章設計図作成<br>2：紹介文②文章作成<br>3：ことばのドリル①文体<br>4：ことばのドリル②整った表現<br>5：ことばのドリル③書式<br>6：ことばのドリル④箇条書きから文章へ<br>7：意見文①文章設計図作成<br>8：意見文②文章作成<br>9：ことばのドリル⑤まとめ<br>10：before/after の文章①文章設計図作成<br>11：before/after の文章②文章作成<br>12：対立項と時間軸のある文章①文章設計図作成<br>13：対立項と時間軸のある文章②文章作成<br>14：敬語のドリル①基本的ルール<br>15：敬語のドリル②練習 |
| 実務経験のある教員        |   |
| 授業時間外学習          | 予習（約2時間）：授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。また、新しい漢字が書けるように日頃から意識しておくこと。<br>復習（約2時間）：講義後も授業内容の理解を深めるために当日の概要・ポイントなどを整理するなど、復習に励むこと。また、講義で課された小レポートなどに取り組み提出すること。   |
| 評価方法             | 課題提出物 60%、確認テスト 40%。欠席6回以上でE評価になる。  |
| 指導方法             | 提出された課題を採点し、コメントをつけて返却する。   |
| 使用テキスト           | 『大学生のための文章表現 練習帳（第2版）』、坂東実子、国書刊行会、2021<br>※電子書籍の購入も可  |
| 参考テキスト・URL       |   |
| 各自準備物            | 電子辞書等   |
| 実習費              |   |
| その他              | ・状況によっては、初回授業に関する内容を大学アドレスメール（Outlook）で行うこともあるため、第1回授業日の前日にメールを受信できるようにしておくこと。<br>・2023年度生は、能力別クラスを運営しており、進捗進度等は異なるため、上記授業内容はクラスの進度に合わせて変更する可能性がある。   |



|      |              |      |       |          |         |
|------|--------------|------|-------|----------|---------|
| 科目名称 | 日本語表現 I B⑧⑩⑫ |      | 授業コード | 11006012 |         |
| 担当教員 | 中川 祐香        |      |       |          |         |
| 単位数  | 2            | 授業形態 | 講義    | 科目分類     | 必修、学修基礎 |
| 年次   | 1            | 開講年度 | 2023  | 開講学期     | 前期      |
| 関連資格 |              |      |       |          |         |

|                  |   |
|------------------|---|
| 授業実施方法           | 対面授業<br>※原則、対面とするが、コロナ禍の状況によっては遠隔授業で対応する。   |
| 使用するアプリ等         | KDU ポータル及び Teams<br>※必要に応じて担当教員からツール（アプリ）を指定する。   |
| 履修制限等            | 予備登録実施  |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | 目的：基本的な日本語の文章表現のルールを学び、日本語の文章力を高めることを目的とする。日本語で表現するための基本として日本語の書き言葉の特徴を把握し、論理的に書く技法の初歩を身につける。<br>目標：<br>・書き言葉と話し言葉の違いを把握し、適切に使い分けられる。<br>・文章を作成する際に、論理的構成に配慮する習慣を身につける。<br>・文章でものごとを客観的に説明できる。<br>・立場を明確にし、異なる視点を取り入れ自らの意見を述べるができる。<br>・待遇表現の基本的ルールを理解し使用できる。   |
| 授業計画の概要          | 身近なテーマから少しずつトレーニングや実践の段階を経て、大学の学びに必要な文章表現力をつけ、読む人に伝わりやすい文章を書けるようになることを目指す。この授業は日本語表現Ⅱおよび文章表現法の基礎ともなるものである。授業の進め方は担当教員から説明する。  |
| 授業計画             | 1：オリエンテーション、紹介文①文章設計図作成<br>2：紹介文②文章作成<br>3：ことばのドリル①文体<br>4：ことばのドリル②整った表現<br>5：ことばのドリル③書式<br>6：ことばのドリル④箇条書きから文章へ<br>7：意見文①文章設計図作成<br>8：意見文②文章作成<br>9：ことばのドリル⑤まとめ<br>10：before/after の文章①文章設計図作成<br>11：before/after の文章②文章作成<br>12：対立項と時間軸のある文章①文章設計図作成<br>13：対立項と時間軸のある文章②文章作成<br>14：敬語のドリル①基本的ルール<br>15：敬語のドリル②練習 |
| 実務経験のある教員        |   |
| 授業時間外学習          | 予習（約2時間）：授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。また、新しい漢字が書けるように日頃から意識しておくこと。<br>復習（約2時間）：講義後も授業内容の理解を深めるために当日の概要・ポイントなどを整理するなど、復習に励むこと。また、講義で課された小レポートなどに取り組み提出すること。   |
| 評価方法             | 課題提出物 60%、確認テスト 40%。欠席6回以上でE評価になる。  |
| 指導方法             | 提出された課題を採点し、コメントをつけて返却する。   |
| 使用テキスト           | 『大学生のための文章表現 練習帳（第2版）』、坂東実子、国書刊行会、2021<br>※電子書籍の購入も可  |
| 参考テキスト・URL       |   |
| 各自準備物            | 電子辞書等   |
| 実習費              |   |
| その他              | ・状況によっては、初回授業に関する内容を大学アドレスメール（Outlook）で行うこともあるため、第1回授業日の前日にメールを受信できるようにしておくこと。<br>・2023年度生は、能力別クラスを運営しており、進捗進度等は異なるため、上記授業内容はクラスの進度に合わせて変更する可能性がある。   |

|      |           |       |          |
|------|-----------|-------|----------|
| 科目名称 | 日本語表現 I C | 授業コード | 13106012 |
| 担当教員 | 新 聖子      |       |          |
| 単位数  | 2         | 授業形態  | 講義       |
| 年次   | 1         | 開講年度  | 2023     |
| 関連資格 |           | 科目分類  | 必修、学修基礎  |
|      |           | 開講学期  | 前期       |

|                  |   |
|------------------|---|
| 授業実施方法           | 対面授業<br>※原則、対面とするが、コロナ禍の状況によっては遠隔授業で対応する。   |
| 使用するアプリ等         | KDU ポータル及び Teams<br>※必要に応じて担当教員からツール（アプリ）を指定する。   |
| 履修制限等            | 予備登録実施  |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | 目的：基本的な日本語の文章表現のルールを学び、日本語の文章力を高めることを目的とする。日本語で表現するための基本として日本語の書き言葉の特徴を把握し、論理的に書く技法の初歩を身につける。<br>目標：<br>・書き言葉と話し言葉の違いを把握し、適切に使い分けられる。<br>・文章を作成する際に、論理的構成に配慮する習慣を身につける。<br>・文章でものごとを客観的に説明できる。<br>・立場を明確にし、異なる視点を取り入れ自らの意見を述べるができる。<br>・待遇表現の基本的ルールを理解し使用できる。   |
| 授業計画の概要          | 身近なテーマから少しずつトレーニングや実践の段階を経て、大学の学びに必要な文章表現力をつけ、読む人に伝わりやすい文章を書けるようになることを目指す。この授業は日本語表現Ⅱおよび文章表現法の基礎ともなるものである。授業の進め方は担当教員から説明する。  |
| 授業計画             | 1：オリエンテーション、紹介文①文章設計図作成<br>2：紹介文②文章作成<br>3：ことばのドリル①文体<br>4：ことばのドリル②整った表現<br>5：ことばのドリル③書式<br>6：ことばのドリル④箇条書きから文章へ<br>7：意見文①文章設計図作成<br>8：意見文②文章作成<br>9：ことばのドリル⑤まとめ<br>10：before/after の文章①文章設計図作成<br>11：before/after の文章②文章作成<br>12：対立項と時間軸のある文章①文章設計図作成<br>13：対立項と時間軸のある文章②文章作成<br>14：敬語のドリル①基本的ルール<br>15：敬語のドリル②練習 |
| 実務経験のある教員        |   |
| 授業時間外学習          | 予習（約2時間）：授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。また、新しい漢字が書けるように日頃から意識しておくこと。<br>復習（約2時間）：講義後も授業内容の理解を深めるために当日の概要・ポイントなどを整理するなど、復習に励むこと。また、講義で課された小レポートなどに取り組み提出すること。   |
| 評価方法             | 課題提出物 60%、確認テスト 40%。欠席6回以上でE評価になる。  |
| 指導方法             | 提出された課題を採点し、コメントをつけて返却する。   |
| 使用テキスト           | 『大学生のための文章表現 練習帳（第2版）』、坂東実子、国書刊行会、2021<br>※電子書籍の購入も可  |
| 参考テキスト・URL       |   |
| 各自準備物            | 電子辞書等   |
| 実習費              |   |
| その他              | ・状況によっては、初回授業に関する内容を大学アドレスメール（Outlook）で行うこともあるため、第1回授業日の前日にメールを受信できるようにしておくこと。<br>・2023年度生は、能力別クラスを運営しており、進捗進度等は異なるため、上記授業内容はクラスの進度に合わせて変更する可能性がある。   |

|      |             |      |       |          |         |
|------|-------------|------|-------|----------|---------|
| 科目名称 | 日本語表現 I R①② |      | 授業コード | 24106012 |         |
| 担当教員 | 新 聖子        |      |       |          |         |
| 単位数  | 2           | 授業形態 | 講義    | 科目分類     | 必修、学修基礎 |
| 年次   | 1           | 開講年度 | 2023  | 開講学期     | 後期      |
| 関連資格 |             |      |       |          |         |

|                  |   |
|------------------|---|
| 授業実施方法           | 対面授業<br>※原則、対面とするが、コロナ禍の状況によっては遠隔授業で対応する。   |
| 使用するアプリ等         | KDU ポータル及び Teams<br>※必要に応じて担当教員からツール（アプリ）を指定する。   |
| 履修制限等            | 予備登録実施  |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | 目的：基本的な日本語の文章表現のルールを学び、日本語の文章力を高めることを目的とする。日本語で表現するための基本として日本語の書き言葉の特徴を把握し、論理的に書く技法の初歩を身につける。<br>目標：<br>・書き言葉と話し言葉の違いを把握し、適切に使い分けられる。<br>・文章を作成する際に、論理的構成に配慮する習慣を身につける。<br>・文章でものごとを客観的に説明できる。<br>・立場を明確にし、異なる視点を取り入れ自らの意見を述べるができる。<br>・待遇表現の基本的ルールを理解し使用できる。   |
| 授業計画の概要          | 身近なテーマから少しずつトレーニングや実践の段階を経て、大学の学びに必要な文章表現力をつけ、読む人に伝わりやすい文章を書けるようになることを目指す。この授業は日本語表現Ⅱおよび文章表現法の基礎ともなるものである。授業の進め方は担当教員から説明する。  |
| 授業計画             | 1：オリエンテーション、紹介文①文章設計図作成<br>2：紹介文②文章作成<br>3：ことばのドリル①文体<br>4：ことばのドリル②整った表現<br>5：ことばのドリル③書式<br>6：ことばのドリル④箇条書きから文章へ<br>7：意見文①文章設計図作成<br>8：意見文②文章作成<br>9：ことばのドリル⑤まとめ<br>10：before/after の文章①文章設計図作成<br>11：before/after の文章②文章作成<br>12：対立項と時間軸のある文章①文章設計図作成<br>13：対立項と時間軸のある文章②文章作成<br>14：敬語のドリル①基本的ルール<br>15：敬語のドリル②練習 |
| 実務経験のある教員        |   |
| 授業時間外学習          | 予習（約2時間）：授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。また、新しい漢字が書けるように日頃から意識しておくこと。<br>復習（約2時間）：講義後も授業内容の理解を深めるために当日の概要・ポイントなどを整理するなど、復習に励むこと。また、講義で課された小レポートなどに取り組み提出すること。   |
| 評価方法             | 課題提出物 60%、確認テスト 40%。欠席6回以上でE評価になる。  |
| 指導方法             | 提出された課題を採点し、コメントをつけて返却する。   |
| 使用テキスト           | 『大学生のための文章表現 練習帳（第2版）』、坂東実子、国書刊行会、2021<br>※電子書籍の購入も可  |
| 参考テキスト・URL       |   |
| 各自準備物            | 電子辞書等   |
| 実習費              |   |
| その他              | ・状況によっては、初回授業に関する内容を大学アドレスメール（Outlook）で行うこともあるため、第1回授業日の前日にメールを受信できるようにしておくこと。<br>・2023年度生は、能力別クラスを運営しており、進捗進度等は異なるため、上記授業内容はクラスの進度に合わせて変更する可能性がある。   |

|      |                     |      |      |       |          |
|------|---------------------|------|------|-------|----------|
| 科目名称 | 日本語表現 I R③ (留学生クラス) |      |      | 授業コード | 24306012 |
| 担当教員 | 新 聖子                |      |      |       |          |
| 単位数  | 2                   | 授業形態 | 講義   | 科目分類  | 必修、学修基礎  |
| 年次   | 1                   | 開講年度 | 2023 | 開講学期  | 後期       |
| 関連資格 |                     |      |      |       |          |

|                   |   |
|-------------------|---|
| 授業実施方法            | 対面授業<br>※原則、対面とするが、コロナ禍の状況によっては遠隔授業で対応する。   |
| 使用するアプリ等          | KDU ポータル及び Teams<br>※必要に応じて担当教員からツール (アプリ) を指定する。   |
| 履修制限等             | 予備登録実施  |
| 授業の目的と到達目標 (学習成果) | 目的：基本的な日本語の文章表現のルールを学び、日本語の文章力を高めることを目的とする。日本語で表現するための基本として日本語の書き言葉の特徴を把握し、論理的に書く技法の初歩を身につける。<br>目標：<br>・書き言葉と話し言葉の違いを把握し、適切に使い分けられる。<br>・文章を作成する際に、論理的構成に配慮する習慣を身につける。<br>・文章でものごとを客観的に説明できる。<br>・立場を明確にし、異なる視点を取り入れ自らの意見を述べるができる。<br>・待遇表現の基本的ルールを理解し使用できる。   |
| 授業計画の概要           | 身近なテーマから少しずつトレーニングや実践の段階を経て、大学の学びに必要な文章表現力をつけ、読む人に伝わりやすい文章を書けるようになることを目指す。この授業は日本語表現Ⅱおよび文章表現法の基礎ともなるものである。授業の進め方は担当教員から説明する。  |
| 授業計画              | 1：オリエンテーション、紹介文①文章設計図作成<br>2：紹介文②文章作成<br>3：ことばのドリル①文体<br>4：ことばのドリル②整った表現<br>5：ことばのドリル③書式<br>6：ことばのドリル④箇条書きから文章へ<br>7：意見文①文章設計図作成<br>8：意見文②文章作成<br>9：ことばのドリル⑤まとめ<br>10：before/after の文章①文章設計図作成<br>11：before/after の文章②文章作成<br>12：対立項と時間軸のある文章①文章設計図作成<br>13：対立項と時間軸のある文章②文章作成<br>14：敬語のドリル①基本的ルール<br>15：敬語のドリル②練習 |
| 実務経験のある教員         |   |
| 授業時間外学習           | 予習 (約2時間)：授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。また、新しい漢字が書けるように日頃から意識しておくこと。<br>復習 (約2時間)：講義後も授業内容の理解を深めるために当日の概要・ポイントなどを整理するなど、復習に励むこと。また、講義で課された小レポートなどに取り組み提出すること。   |
| 評価方法              | 課題提出物 60%、確認テスト 40%。欠席6回以上でE評価になる。  |
| 指導方法              | 提出された課題を採点し、コメントをつけて返却する。   |
| 使用テキスト            | 『大学生のための文章表現 練習帳 (第2版)』、坂東実子、国書刊行会、2021<br>※電子書籍の購入も可   |
| 参考テキスト・URL        | 『おしゃべりしながら書くことを楽しむ中級作文』杉浦千里、木戸光子著、凡人社、2020 (留学生クラスのみ)   |
| 各自準備物             | 電子辞書等   |
| 実習費               |   |
| その他               | ・状況によっては、初回授業に関する内容を大学アドレスメール (Outlook) で行うこともあるため、第1回授業日の前日にメールを受信できるようにしておくこと。<br>・能力別クラスを運営しており、進捗進度等は異なるため、上記授業内容はクラスの進度に合わせて変更する可能性がある。  |

|      |              |      |      |       |                      |
|------|--------------|------|------|-------|----------------------|
| 科目名称 | 日本語表現Ⅱ ①②③④⑤ |      |      | 授業コード | 10106240             |
| 担当教員 | 野口 雅司        |      |      |       |                      |
| 単位数  | 2            | 授業形態 | 講義   | 科目分類  | 学修基礎/コミュニケーション/リテラシー |
| 年次   | 1            | 開講年度 | 2023 | 開講学期  | 前期/後期                |
| 関連資格 | 博学           |      |      |       |                      |

|                  |   |
|------------------|---|
| 授業実施方法           | 対面授業  |
| 使用するアプリ等         | KDU ポータル及び Teams<br>※必要に応じて担当教員よりツール（アプリ）の指定をする。  |
| 履修制限等            | 予備登録実施、「その他」参照  |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | 目的：大学生としてふさわしい教養と社会で活躍するために必要な日本語での文章作成の基本を修得する。基本的な日本語の文章表現のルールを実際に応用しながら、まとまりのある論理的な文章が書けるようになる。構成を意識し、読み手に伝わる文章が作成できる。<br>目標：<br>・テーマについて様々な視点から考え、共有できる。<br>・レポートの構造を把握し、文章が作成できる。<br>・資料を読み、要点を抽出することができる。<br>・資料を適切に引用し、事実と意見を書き分けられる。<br>・信頼性のある資料を探し、参考文献リストを作成できる。   |
| 授業計画の概要          | 「日本語表現Ⅰ」で学んだ基本的な日本語の文章表現のルールを応用し、レポートを作成する。レポートの構造を把握し、「論理的な文章能力」を育成することを目指す。   |
| 授業計画             | 1：オリエンテーション：授業の進め方・課題・評価について<br>2：レポート・論文の種類とタイプ：レポートの課題とテーマの絞り方について<br>3：レポート・論文の書き方（1）：レポートの基本と目的<br>4：レポート・論文の書き方（2）：レポートの事前準備と全体構成（序論・本論・結論）<br>5：レポート・論文の書き方（3）：事実と意見の組み立て<br>6：レポート・論文の書き方（4）：引用のルールと表現<br>7：レポート・論文の書き方（5）：データやグラフの引用・作成<br>8：レポート・論文の書き方（6）：資料の探し方と参考文献の書き方<br>9：レポート・論文の書き方（7）：アウトラインの書き方<br>10：実用文の書き方（1）：敬語の使い方<br>11：実用文の書き方（2）：メールの書き方<br>12：レポート・論文の書き方（8）：レポート・論文でよく使われる表現<br>13：レポート・論文の書き方（9）：読みやすい文章を書くために気をつけたいこと<br>14：レポート・論文の書き方（10）：序論から結論までの流れ<br>15：最終課題レポートのテーマの説明と全体のまとめ |
| 実務経験のある教員        |   |
| 授業時間外学習          | 予習（約2時間）：アカデミック・ライティングに関する日本語表現のルールについて、自分でも調べて学習しておくこと。苦手な学習項目等があれば、自学自習しておくこと。<br>復習（約2時間）：授業で行った内容をクラスプロファイルなどで確認できるようにしておくので、復習に活用すること。また、毎回課題を課すので必ず提出すること。  |
| 評価方法             | 最終課題レポート：50%・課題：50%（各クラスにおけるミニレポート・小テストなど）<br>*課題の未提出が6回以上の場合はE評価とする。   |
| 指導方法             | 配布するレジюмеに沿って授業をすすめ、文章作成作業や書かれた文章についてディスカッションを行う。   |
| 使用テキスト           | 適宜資料を配布する。  |
| 参考テキスト・URL       | ・『大学生のための文章表現 練習帳（第2版）』、坂東実子、国書刊行会、2021<br>・『大学生のための表現カトレーニング あしか：アイデアをもって社会について考える（レポート・論文編）』宇野聖子・藤浦五月、ココ出版、2016<br>・『日本語表現法』ワオ・コーポレーション、2016  |
| 各自準備物            | 電子辞書など  |
| 実習費              |   |
| その他              | ・上記授業内容は各クラスによって変更する可能性がある。<br>・課題は指定した期間内に提出すること。締め切り後や再提出は受け付けない。<br>・履修は「日本語表現Ⅰ」を単位修得した者に限る。   |

|      |           |      |       |          |                      |
|------|-----------|------|-------|----------|----------------------|
| 科目名称 | 日本語表現Ⅱ ⑥⑩ |      | 授業コード | 20606240 |                      |
| 担当教員 | 小松 麻美     |      |       |          |                      |
| 単位数  | 2         | 授業形態 | 講義    | 科目分類     | 学修基礎/コミュニケーション/リテラシー |
| 年次   | 1         | 開講年度 | 2023  | 開講学期     | 後期                   |
| 関連資格 | 博学        |      |       |          |                      |

|                  |   |
|------------------|---|
| 授業実施方法           | 対面授業  |
| 使用するアプリ等         | KDU ポータル及び Teams<br>※必要に応じて担当教員よりツール（アプリ）の指定をする。  |
| 履修制限等            | 予備登録実施、「その他」参照  |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | 目的：大学生としてふさわしい教養と社会で活躍するために必要な日本語での文章作成の基本を修得する。基本的な日本語の文章表現のルールを実際に応用しながら、まとまりのある論理的な文章が書けるようになる。構成を意識し、読み手に伝わる文章が作成できる。<br>目標：<br>・テーマについて様々な視点から考え、共有できる。<br>・レポートの構造を把握し、文章が作成できる。<br>・資料を読み、要点を抽出することができる。<br>・資料を適切に引用し、事実と意見を書き分けられる。<br>・信頼性のある資料を探し、参考文献リストを作成できる。   |
| 授業計画の概要          | 「日本語表現Ⅰ」で学んだ基本的な日本語の文章表現のルールを応用し、レポートを作成する。レポートの構造を把握し、「論理的な文章能力」を育成することを目指す。   |
| 授業計画             | 1：オリエンテーション：授業の進め方・課題・評価について<br>2：レポート・論文の種類とタイプ：レポートの課題とテーマの絞り方について<br>3：レポート・論文の書き方（1）：レポートの基本と目的<br>4：レポート・論文の書き方（2）：レポートの事前準備と全体構成（序論・本論・結論）<br>5：レポート・論文の書き方（3）：事実と意見の組み立て<br>6：レポート・論文の書き方（4）：引用のルールと表現<br>7：レポート・論文の書き方（5）：データやグラフの引用・作成<br>8：レポート・論文の書き方（6）：資料の探し方と参考文献の書き方<br>9：レポート・論文の書き方（7）：アウトラインの書き方<br>10：実用文の書き方（1）：敬語の使い方<br>11：実用文の書き方（2）：メールの書き方<br>12：レポート・論文の書き方（8）：レポート・論文でよく使われる表現<br>13：レポート・論文の書き方（9）：読みやすい文章を書くために気をつけたいこと<br>14：レポート・論文の書き方（10）：序論から結論までの流れ<br>15：最終課題レポートのテーマの説明と全体のまとめ |
| 実務経験のある教員        |   |
| 授業時間外学習          | 予習（約2時間）：アカデミック・ライティングに関する日本語表現のルールについて、自分でも調べて学習しておくこと。苦手な学習項目等があれば、自学自習しておくこと。<br>復習（約2時間）：授業で行った内容をクラスプロファイルなどで確認できるようにしておくので、復習に活用すること。また、毎回課題を課すので必ず提出すること。  |
| 評価方法             | 最終課題レポート：50%・課題：50%（各クラスにおけるミニレポート・小テストなど）<br>*課題の未提出が6回以上の場合はE評価とする。   |
| 指導方法             | 配布するレジュメに沿って授業をすすめ、文章作成作業や書かれた文章についてディスカッションを行う。  |
| 使用テキスト           | 適宜資料を配布する。  |
| 参考テキスト・URL       | ・『大学生のための文章表現 練習帳（第2版）』、坂東実子、国書刊行会、2021<br>・『大学生のための表現カトレーニング あしか：アイデアをもって社会について考える（レポート・論文編）』宇野聖子・藤浦五月、ココ出版、2016<br>・『日本語表現法』ワオ・コーポレーション、2016  |
| 各自準備物            | 電子辞書など  |
| 実習費              |   |
| その他              | ・上記授業内容は各クラスによって変更する可能性がある。<br>・課題は指定した期間内に提出すること。締め切り後や再提出は受け付けない。<br>・履修は「日本語表現Ⅰ」を単位修得した者に限る。   |

|      |           |      |       |          |                      |
|------|-----------|------|-------|----------|----------------------|
| 科目名称 | 日本語表現Ⅱ ⑦⑧ |      | 授業コード | 20706240 |                      |
| 担当教員 | 中川 祐香     |      |       |          |                      |
| 単位数  | 2         | 授業形態 | 講義    | 科目分類     | 学修基礎/コミュニケーション/リテラシー |
| 年次   | 1         | 開講年度 | 2023  | 開講学期     | 後期                   |
| 関連資格 | 博学        |      |       |          |                      |

|                  |   |
|------------------|---|
| 授業実施方法           | 対面授業  |
| 使用するアプリ等         | KDU ポータル及び Teams<br>※必要に応じて担当教員よりツール（アプリ）の指定をする。  |
| 履修制限等            | 予備登録実施、「その他」参照  |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | 目的：大学生としてふさわしい教養と社会で活躍するために必要な日本語での文章作成の基本を修得する。基本的な日本語の文章表現のルールを実際に応用しながら、まとまりのある論理的な文章が書けるようになる。構成を意識し、読み手に伝わる文章が作成できる。<br>目標：<br>・テーマについて様々な視点から考え、共有できる。<br>・レポートの構造を把握し、文章が作成できる。<br>・資料を読み、要点を抽出することができる。<br>・資料を適切に引用し、事実と意見を書き分けられる。<br>・信頼性のある資料を探し、参考文献リストを作成できる。   |
| 授業計画の概要          | 「日本語表現Ⅰ」で学んだ基本的な日本語の文章表現のルールを応用し、レポートを作成する。レポートの構造を把握し、「論理的な文章能力」を育成することを目指す。   |
| 授業計画             | 1：オリエンテーション：授業の進め方・課題・評価について<br>2：レポート・論文の種類とタイプ：レポートの課題とテーマの絞り方について<br>3：レポート・論文の書き方（1）：レポートの基本と目的<br>4：レポート・論文の書き方（2）：レポートの事前準備と全体構成（序論・本論・結論）<br>5：レポート・論文の書き方（3）：事実と意見の組み立て<br>6：レポート・論文の書き方（4）：引用のルールと表現<br>7：レポート・論文の書き方（5）：データやグラフの引用・作成<br>8：レポート・論文の書き方（6）：資料の探し方と参考文献の書き方<br>9：レポート・論文の書き方（7）：アウトラインの書き方<br>10：実用文の書き方（1）：敬語の使い方<br>11：実用文の書き方（2）：メールの書き方<br>12：レポート・論文の書き方（8）：レポート・論文でよく使われる表現<br>13：レポート・論文の書き方（9）：読みやすい文章を書くために気をつけたいこと<br>14：レポート・論文の書き方（10）：序論から結論までの流れ<br>15：最終課題レポートのテーマの説明と全体のまとめ |
| 実務経験のある教員        |   |
| 授業時間外学習          | 予習（約2時間）：アカデミック・ライティングに関する日本語表現のルールについて、自分でも調べて学習しておくこと。苦手な学習項目等があれば、自学自習しておくこと。<br>復習（約2時間）：授業で行った内容をクラスプロファイルなどで確認できるようにしておくので、復習に活用すること。また、毎回課題を課すので必ず提出すること。  |
| 評価方法             | 最終課題レポート：50%・課題：50%（各クラスにおけるミニレポート・小テストなど）<br>*課題の未提出が6回以上の場合はE評価とする。   |
| 指導方法             | 配布するレジュメに沿って授業をすすめ、文章作成作業や書かれた文章についてディスカッションを行う。  |
| 使用テキスト           | 適宜資料を配布する。  |
| 参考テキスト・URL       | ・『大学生のための文章表現 練習帳（第2版）』、坂東実子、国書刊行会、2021<br>・『大学生のための表現カトレーニング あしか：アイデアをもって社会について考える（レポート・論文編）』宇野聖子・藤浦五月、ココ出版、2016<br>・『日本語表現法』ワオ・コーポレーション、2016  |
| 各自準備物            | 電子辞書など  |
| 実習費              |   |
| その他              | ・上記授業内容は各クラスによって変更する可能性がある。<br>・課題は指定した期間内に提出すること。締め切り後や再提出は受け付けない。<br>・履修は「日本語表現Ⅰ」を単位修得した者に限る。   |

|      |           |      |       |          |                      |
|------|-----------|------|-------|----------|----------------------|
| 科目名称 | 日本語表現Ⅱ ⑨⑩ |      | 授業コード | 20906240 |                      |
| 担当教員 | 角田 宏子     |      |       |          |                      |
| 単位数  | 2         | 授業形態 | 講義    | 科目分類     | 学修基礎/コミュニケーション/リテラシー |
| 年次   | 1         | 開講年度 | 2023  | 開講学期     | 後期                   |
| 関連資格 | 博学        |      |       |          |                      |

|                  |   |
|------------------|---|
| 授業実施方法           | 対面授業  |
| 使用するアプリ等         | KDU ポータル及び Teams<br>※必要に応じて担当教員よりツール（アプリ）の指定をする。  |
| 履修制限等            | 予備登録実施、「その他」参照  |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | 目的：大学生としてふさわしい教養と社会で活躍するために必要な日本語での文章作成の基本を修得する。基本的な日本語の文章表現のルールを実際に応用しながら、まとまりのある論理的な文章が書けるようになる。構成を意識し、読み手に伝わる文章が作成できる。<br>目標：<br>・テーマについて様々な視点から考え、共有できる。<br>・レポートの構造を把握し、文章が作成できる。<br>・資料を読み、要点を抽出することができる。<br>・資料を適切に引用し、事実と意見を書き分けられる。<br>・信頼性のある資料を探し、参考文献リストを作成できる。   |
| 授業計画の概要          | 「日本語表現Ⅰ」で学んだ基本的な日本語の文章表現のルールを応用し、レポートを作成する。レポートの構造を把握し、「論理的な文章能力」を育成することを目指す。   |
| 授業計画             | 1：オリエンテーション：授業の進め方・課題・評価について<br>2：レポート・論文の種類とタイプ：レポートの課題とテーマの絞り方について<br>3：レポート・論文の書き方（1）：レポートの基本と目的<br>4：レポート・論文の書き方（2）：レポートの事前準備と全体構成（序論・本論・結論）<br>5：レポート・論文の書き方（3）：事実と意見の組み立て<br>6：レポート・論文の書き方（4）：引用のルールと表現<br>7：レポート・論文の書き方（5）：データやグラフの引用・作成<br>8：レポート・論文の書き方（6）：資料の探し方と参考文献の書き方<br>9：レポート・論文の書き方（7）：アウトラインの書き方<br>10：実用文の書き方（1）：敬語の使い方<br>11：実用文の書き方（2）：メールの書き方<br>12：レポート・論文の書き方（8）：レポート・論文でよく使われる表現<br>13：レポート・論文の書き方（9）：読みやすい文章を書くために気をつけたいこと<br>14：レポート・論文の書き方（10）：序論から結論までの流れ<br>15：最終課題レポートのテーマの説明と全体のまとめ |
| 実務経験のある教員        |   |
| 授業時間外学習          | 予習（約2時間）：アカデミック・ライティングに関する日本語表現のルールについて、自分でも調べて学習しておくこと。苦手な学習項目等があれば、自学自習しておくこと。<br>復習（約2時間）：授業で行った内容をクラスプロファイルなどで確認できるようにしておくので、復習に活用すること。また、毎回課題を課すので必ず提出すること。  |
| 評価方法             | 最終課題レポート：50%・課題：50%（各クラスにおけるミニレポート・小テストなど）<br>*課題の未提出が6回以上の場合はE評価とする。   |
| 指導方法             | 配布するレジュメに沿って授業をすすめ、文章作成作業や書かれた文章についてディスカッションを行う。  |
| 使用テキスト           | 適宜資料を配布する。  |
| 参考テキスト・URL       | ・『大学生のための文章表現 練習帳（第2版）』、坂東実子、国書刊行会、2021<br>・『大学生のための表現カトレーニング あしか：アイデアをもって社会について考える（レポート・論文編）』宇野聖子・藤浦五月、ココ出版、2016<br>・『日本語表現法』ワオ・コーポレーション、2016  |
| 各自準備物            | 電子辞書など  |
| 実習費              |   |
| その他              | ・上記授業内容は各クラスによって変更する可能性がある。<br>・課題は指定した期間内に提出すること。締め切り後や再提出は受け付けない。<br>・履修は「日本語表現Ⅰ」を単位修得した者に限る。   |



|      |            |      |       |          |           |
|------|------------|------|-------|----------|-----------|
| 科目名称 | 文章表現法 A ①② |      | 授業コード | 20106251 |           |
| 担当教員 | 角田 宏子      |      |       |          |           |
| 単位数  | 2          | 授業形態 | 講義    | 科目分類     | コミュニケーション |
| 年次   | 2          | 開講年度 | 2023  | 開講学期     | 後期        |
| 関連資格 |            |      |       |          |           |

|                   |   |
|-------------------|---|
| 授業実施方法            | 対面  |
| 使用するアプリ等          | KDU ポータル  |
| 履修制限等             | 予備登録実施、「その他」参照  |
| 授業の目的と到達目標 (学習成果) | <p>目的：大学生としてふさわしい教養と、社会で活躍するために必要な日本語の実践的な技術を身につける。多様なコミュニケーションの場に対応できる力の修得を目的とする。日本語表現Ⅰで学んだアカデミック・ライティングの基礎を生かし、各自の大学での学びと自己について簡潔な文章で説明出来るようになる。</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らを客観的に見つけ、経験を整理し、文章で表現することができる。</li> <li>・無駄を省いた簡潔な文章で表現できる。</li> <li>・社会に視野を広げ自身との接点を意識した客観的な文章が書ける。</li> </ul>   |
| 授業計画の概要           | これまでに書いてきた長文のレポートとは異なり、300字、あるいは800字から1000字程度で自己をパフォーマンスできる文章作成の演習を行う。そのための読解資料を配布するが、各自で関心に添った資料を収集し準備することも求める。グループワークも取り入れる。  |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1：授業内容ならびに課題についての詳細説明</li> <li>2：コミュニケーションの文章</li> <li>3：自分を見つめて書く（人間）</li> <li>4：資料の読解と文章</li> <li>5：社会人と文章：待遇表現</li> <li>6：自分を見つめて書く（職業観）</li> <li>7：自分を見つめて書く（学生）</li> <li>8：社会人と文章：通信文</li> <li>9：与えられた文章について書く</li> <li>10：社会への関心をもとに書く（専門）</li> <li>11：社会への関心をもとに書く（持続可能な発展）</li> <li>12：社会への関心をもとに書く（業界）</li> <li>13：社会人と文章：説明書</li> <li>14：社会人と文章：企画書</li> <li>15：社会人となる自己を語る</li> </ol> |
| 実務経験のある教員         |   |
| 授業時間外学習           | 隔週ごとに、KDU ポータルの[クラスプロファイル]より課題の提出を求めるので、準備しておくこと。また、出来ていない場合は再提出を求めるので、提出すること。（合計4時間程度必要）   |
| 評価方法              | 小レポート 40%、課題 60%。欠席6回以上でE評価になる。毎授業時の小レポートの提出をもって出席とする。  |
| 指導方法              | 次回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説を行う。提出された課題には、コメントをつけて返却する。   |
| 使用テキスト            | プリントを配布する。  |
| 参考テキスト・URL        | 『最新最強のエントリーシート・自己PR・志望動機'24年版』成美堂出版   |
| 各自準備物             | 電子辞書等   |
| 実習費               |   |
| その他               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本語表現Ⅰ」を単位習得した者に限る。</li> <li>・「文章表現法A」と「文章表現法B」はそれぞれ独立した科目であり、単独で履修可能である。</li> </ul>   |

|      |            |       |          |
|------|------------|-------|----------|
| 科目名称 | 文章表現法 B ①④ | 授業コード | 20106261 |
| 担当教員 | 新 聖子       |       |          |
| 単位数  | 2          | 授業形態  | 講義       |
| 年次   | 2          | 開講年度  | 2023     |
| 関連資格 |            | 科目分類  | 学修基礎     |
|      |            | 開講学期  | 後期       |

|                  |  |
|------------------|--|
| 授業実施方法           | 対面授業   |
| 使用するアプリ等         | KDU ポータル   |
| 履修制限等            | 予備登録実施、「その他」参照   |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | <p>目的：大学生としてふさわしい教養と社会で活躍するために必要な日本語の実践的な口頭表現の技術を身につける。日本語表現Ⅰで学んだアカデミック・ライティングの基礎を応用し、大学生に身近な場面で必要とされることについて、提示資料を用いて発表できるようになる。</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的な展開で発表のための構想を組み立てることができる。</li> <li>・テーマに関連する情報を収集し、発表時に必要な資料が作成できる。</li> <li>・聞き手を意識した手法で発表し、質疑応答に適切に対応できる。</li> </ul>  |
| 授業計画の概要          | <p>テーマについて話し合い、新聞記事や映像資料から必要な情報を取り出し内容を整理する。またグループワークを通して聞き手に分かりやすく伝える表現を学ぶ。ハンドアウト資料やスライド資料（パワーポイント）を用いた口頭発表を行い、聞き手からフィードバックを行う。</p>   |
| 授業計画             | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、印象に残る自己紹介</li> <li>2. 口頭発表の基礎①プレゼンテーションの形式</li> <li>3. 口頭発表の基礎②提示資料の形式</li> <li>4. 紹介①「もの」について順序を意識して話す</li> <li>5. 紹介②「こと」について話の中心部を意識して話す</li> <li>6. 作品紹介①トピック決定、構成の確認</li> <li>7. 作品紹介②表現練習、ハンドアウト資料の作成</li> <li>8. 作品紹介③発表と振り返り</li> <li>9. 情報提供①読解と意見交換、情報収集</li> <li>10. 情報提供②構想決定、表現練習、スライド（パワーポイント）作成</li> <li>11. 情報提供③発表と振り返り</li> <li>12. プレゼンテーション「地域の宣伝」①読解、構想決定、情報収集</li> <li>13. プレゼンテーション「地域の宣伝」②発表原稿・スライド（パワーポイント）作成</li> <li>14. プレゼンテーション「地域の宣伝」③発表と振り返り</li> <li>15. プレゼンテーション「地域の宣伝」④発表のまとめ、学習項目の振り返り</li> </ol> |
| 実務経験のある教員        |  |
| 授業時間外学習          | <p>予習(2 時間)オリエンテーション時に配付、またポータルに掲示される授業計画に沿って該当項目の予習・準備を行う。</p> <p>復習(2 時間)学習項目を整理し、授業回ごとに提示される課題（資料検索、構成表の作成など）を行う。</p>   |
| 評価方法             | <p>課題提出 50%、発表（3 回）50%で評価する。また、6 回以上の課題未提出を E 評価とする。課題の内容はオリエンテーション時に説明する。</p>   |
| 指導方法             | <p>提出された課題・振り返りシートにはコメントをつけて返却し、授業時に解説する。</p>  |
| 使用テキスト           | <p>適宜プリントを配付する。</p>  |
| 参考テキスト・URL       | <p>『大学生のための文章表現&amp;口頭表現練習帳』銅直信子・板東実子、国書刊行会、2013</p> <p>『日本語口頭発表と討論の技術ーコミュニケーション・スピーチ・ディバートのためにー』東海大学留学生教育センター口頭発表教材研究会、東海大学出版会、1995</p>   |
| 各自準備物            | <p>電子辞書等</p>   |
| 実習費              |  |
| その他              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修は「日本語表現Ⅰ」を単位修得した者に限る。</li> <li>・文章表現法 A と文章表現法 B はそれぞれ独立した科目であり、単独で履修可能である。</li> </ul>   |

|      |            |      |       |          |      |
|------|------------|------|-------|----------|------|
| 科目名称 | 文章表現法 B ②③ |      | 授業コード | 20206261 |      |
| 担当教員 | 小松 麻美      |      |       |          |      |
| 単位数  | 2          | 授業形態 | 講義    | 科目分類     | 学修基礎 |
| 年次   | 2          | 開講年度 | 2023  | 開講学期     | 後期   |
| 関連資格 |            |      |       |          |      |

|                  |  |
|------------------|--|
| 授業実施方法           | 対面授業   |
| 使用するアプリ等         | KDU ポータル   |
| 履修制限等            | 予備登録実施、「その他」参照   |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | <p>目的：大学生としてふさわしい教養と社会で活躍するために必要な日本語の実践的な口頭表現の技術を身につける。日本語表現Ⅰで学んだアカデミック・ライティングの基礎を応用し、大学生に身近な場面で必要とされることについて、提示資料を用いて発表できるようになる。</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的な展開で発表のための構想を組み立てることができる。</li> <li>・テーマに関連する情報を収集し、発表時に必要な資料が作成できる。</li> <li>・聞き手を意識した手法で発表し、質疑応答に適切に対応できる。</li> </ul>  |
| 授業計画の概要          | <p>テーマについて話し合い、新聞記事や映像資料から必要な情報を取り出し内容を整理する。またグループワークを通して聞き手に分かりやすく伝える表現を学ぶ。ハンドアウト資料やスライド資料（パワーポイント）を用いた口頭発表を行い、聞き手からフィードバックを行う。</p>   |
| 授業計画             | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、印象に残る自己紹介</li> <li>2. 口頭発表の基礎①プレゼンテーションの形式</li> <li>3. 口頭発表の基礎②提示資料の形式</li> <li>4. 紹介①「もの」について順序を意識して話す</li> <li>5. 紹介②「こと」について話の中心部を意識して話す</li> <li>6. 作品紹介①トピック決定、構成の確認</li> <li>7. 作品紹介②表現練習、ハンドアウト資料の作成</li> <li>8. 作品紹介③発表と振り返り</li> <li>9. 情報提供①読解と意見交換、情報収集</li> <li>10. 情報提供②構想決定、表現練習、スライド（パワーポイント）作成</li> <li>11. 情報提供③発表と振り返り</li> <li>12. プレゼンテーション「地域の宣伝」①読解、構想決定、情報収集</li> <li>13. プレゼンテーション「地域の宣伝」②発表原稿・スライド（パワーポイント）作成</li> <li>14. プレゼンテーション「地域の宣伝」③発表と振り返り</li> <li>15. プレゼンテーション「地域の宣伝」④発表のまとめ、学習項目の振り返り</li> </ol> |
| 実務経験のある教員        |  |
| 授業時間外学習          | <p>予習(2 時間)オリエンテーション時に配付、またポータルに掲示される授業計画に沿って該当項目の予習・準備を行う。</p> <p>復習(2 時間)学習項目を整理し、授業回ごとに提示される課題（資料検索、構成表の作成など）を行う。</p>   |
| 評価方法             | <p>課題提出 50%、発表（3 回）50%で評価する。また、6 回以上の課題未提出を E 評価とする。課題の内容はオリエンテーション時に説明する。</p>   |
| 指導方法             | <p>提出された課題・振り返りシートにはコメントをつけて返却し、授業時に解説する。</p>  |
| 使用テキスト           | <p>適宜プリントを配付する。</p>  |
| 参考テキスト・URL       | <p>『大学生のための文章表現&amp;口頭表現練習帳』銅直信子・板東実子、国書刊行会、2013</p> <p>『日本語口頭発表と討論の技術ーコミュニケーション・スピーチ・ディバートのためにー』東海大学留学生教育センター口頭発表教材研究会、東海大学出版会、1995</p>   |
| 各自準備物            | <p>電子辞書等</p>   |
| 実習費              |  |
| その他              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修は「日本語表現Ⅰ」を単位修得した者に限る。</li> <li>・文章表現法 A と文章表現法 B はそれぞれ独立した科目であり、単独で履修可能である。</li> </ul>   |

|      |            |       |                  |
|------|------------|-------|------------------|
| 科目名称 | キャリアデザイン A | 授業コード | 20001643         |
| 担当教員 | 前田 博美      |       |                  |
| 単位数  | 2          | 授業形態  | 講義               |
| 年次   | 1          | 開講年度  | 2023             |
| 関連資格 |            | 科目分類  | 学修基礎／社会参加・キャリア形成 |
|      |            | 開講学期  | 後期               |

|                   |  |
|-------------------|--|
| 授業実施方法            | 対面授業   |
| 使用するアプリ等          | KDU ポータル   |
| 履修制限等             |  |
| 授業の目的と到達目標 (学習成果) | <p>〔授業の目的〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自身のキャリアデザインについて考え、自ら主体的に取り組む力を身につける</li> </ul> <p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の力に気付く(自己分析)、さらに成長するための方法を考える</li> <li>・コミュニケーション力とは何か</li> <li>・社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を身につける</li> </ul>   |
| 授業計画の概要           | <p>「自分を深く知る」ことと、「社会参加への接近」をテーマに自己理解と社会に出るための基礎を深めます。これからの大学生活をより有意義なものにし、また、将来の目標を明確にすることで、実社会に主体的に参画していくための動機付けを行います。</p> <p>この授業では、人とのコミュニケーションを通して、社会人として求められる能力の気づきや上達する方法を学びます。</p>   |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1：キャリアデザインって何でしょう？</li> <li>2：人生観・職業観について(社会に出るという事を理解する)</li> <li>3：自己分析 初級編(自分の良いところを見つめよう)</li> <li>4：自己分析から成長させることを考える</li> <li>5：自分の事を伝える(PREP法)①</li> <li>6：自分の事を伝える(PREP法)②</li> <li>7：伝える難しさを知ろう！①伝えることを準備しよう！</li> <li>8：自分のことをまとめてみよう。(自己PR総括)</li> <li>9：就職・創作・進学・・共通に求められる力について知る(社会人基礎力+総合力)①</li> <li>10：就職・創作・進学・・共通に求められる力について知る(社会人基礎力+総合力)②</li> <li>11：「好きなこと」と「やりたいこと」、そして、コミュニケーション能力とは？</li> <li>12：インターンシップについて(キャリアセンターに聞いてみよう！)</li> <li>13：自分のこれからをキャリアデザインする！(目標設定)</li> <li>14：学校の外にも視野を広げよう！(卒業生の話)</li> <li>15：総括2年生に向けて</li> </ol> |
| 実務経験のある教員         | メーカーの経営企画及び人事部及び独立してからの採用業務での経験を活かし、実際の社会に出るために必要な知識や心構えを就職活動への導入部分として、具体的に身につく講義及びグループワークを行う。   |
| 授業時間外学習           | 配布資料を読み返し、復習し、何度でも、考えてみることを望ましい。<br>また、web サイトや新聞などで、日々の広い範囲のニュースを知ることが習慣とする。  |
| 評価方法              | ワークシート等の課題提出とその内容で評価します。<br>毎回の授業内容のワークシートへの解答70%、授業の感想・意見コメント記入提出30%。<br>提出回数10回以下で評価欠格条件となりますので、単位修得出来ません。注意してください。<br>しっかり自己管理してください。   |
| 指導方法              | 次回の授業日に、特徴的なコメントや質問について、紹介及び回答する。  |
| 使用テキスト            | 当日、使用スライドをKDLポータルのクラスプロファイルに置きます。<br>一部、プリントを配布します。  |
| 参考テキスト・URL        |  |
| 各自準備物             | 筆記用具・携帯  |
| 実習費               |  |
| その他               | <p>講義を聴いて自ら、課題の答えを考える講義です。</p> <p>上記の授業計画は受講者の状況で変更することもあります。</p> <p>ワークシートの未記入部分がある場合は、減点対象扱いとします。</p> <p>ワークシート提出を5回以上未提出のものは失格とみなし、評価の対象にはならないので注意すること。</p> <p>次年度キャリアデザインBの継続履修を推奨します。</p>   |

|                  |           |       |          |
|------------------|-----------|-------|----------|
| 科目名称             | キャリアデザインB | 授業コード | 20001644 |
| 担当教員             | 藤村 貴子     |       |          |
| 単位数              | 2         | 授業形態  | 対面授業     |
| 年次               | 2         | 開講年度  | 2023     |
| 科目分類             |           | 開講学期  | 後期       |
| 学修基礎／社会参加・キャリア形成 |           |       |          |
| 関連資格             |           |       |          |

|                  |   |
|------------------|---|
| 授業実施方法           | 対面授業  |
| 使用するアプリ等         |   |
| 履修制限等            |   |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | <p>授業の目的：<br/>社会や企業、様々な仕事を見る力を学修するとともに、自分の特性をどのようにいかすことができるのかということ、具体的にイメージし、表現する力を身に付け、自ら行動する道筋を作る。</p> <p>到達目標：<br/>・情報収集力・ニュースを読む<br/>・伝える力(コミュニケーション力・文章力)<br/>・社会を知る・働くことへの理解<br/>・ディスカッション・グループワーク(チームで課題を解決するのに必要な力を理解し、主体的にかかわる)</p>  |
| 授業計画の概要          | <p>具体的な仕事をモデルケースにしなが、社会のニーズ、企業の仕組み、仕事をするこの意味をとらえる視点を学ぶ。また、言葉で表現する力を高め、自信をもって就職活動に進んでいく動機づけを行う。<br/>全授業において、知識講義とワークを両立して進める。</p>  |
| 授業計画             | <p>①オリエンテーション<br/>②ビジネスの基礎① 社会と企業や仕事のニーズを知る<br/>③ビジネスの基礎② 働くことの意味を考える<br/>④働く場のしくみ① 業種・業界<br/>⑤働く場のしくみ② 働く組織と働き方<br/>⑥自己表現① 仕事をしていくうえで必要なマナー<br/>⑦自己表現② 言葉にする力、伝える力<br/>⑧卒業生が語る仕事と社会<br/>⑨自分の価値① 企業や組織が必要とするスキル<br/>⑩自分の価値② 自立と収入<br/>⑪ビジネススキルの基礎① 問題解決の力、論理的思考<br/>⑫ビジネススキルの基礎② コミュニケーション、共同作業<br/>⑬目標を考える① アクションプラン<br/>⑭目標を考える② プレゼンテーション<br/>⑮まとめ</p> |
| 実務経験のある教員        | 総合人材ビジネス業界で数々の仕事や採用現場に関わった経験、独立後の人材教育や就職支援の経験を活かし、実社会を想定した知識や社会人基礎力を身に付ける講義やワークを実施する  |
| 授業時間外学習          | <p>1. 日々のニュースなどから自分なりの意見を持つことを習慣化すること<br/>2. 授業の内容を具体的な行動に結びつけ、日々の自らの成長を表現できるようにすること</p>  |
| 評価方法             | <p>授業への出席と3～4回の課題提出で判断します。<br/>出席回数10回以下で評価欠格条件となりますので、単位習得できません。<br/>課題の未記入部分がある場合は減点対象となります。</p>  |
| 指導方法             | 今回の授業日に特徴的なコメントや質問についての紹介および回答を行う。  |
| 使用テキスト           | オリジナルテキストの配布  |
| 参考テキスト・URL       |   |
| 各自準備物            |   |
| 実習費              |   |
| その他              | <p>上記の授業計画は、受講者の状況で変更することがあります。<br/>ワークシートの未記入部分がある場合は減点対象となります。<br/>次年度キャリアデザインCの継続履修を推奨します</p>  |

|      |             |       |           |
|------|-------------|-------|-----------|
| 科目名称 | キャリアデザインC ① | 授業コード | 20101645  |
| 担当教員 | 篠原 功治       |       |           |
| 単位数  | 2           | 授業形態  | 講義        |
| 年次   | 3           | 開講年度  | 2023      |
| 関連資格 |             | 科目分類  | 学修基礎/社会参加 |
|      |             | 開講学期  | 前期        |

|                   |   |
|-------------------|---|
| 授業実施方法            | 対面授業  |
| 使用するアプリ等          | YouTube 動画、KDU ポータル (クラスプロファイル)、Microsoft365 (Office365)  |
| 履修制限等             |   |
| 授業の目的と到達目標 (学習成果) | <p>【授業の目的】 就職試験に向けて、自ら実践できる力をつける</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分を知る…自分の能力、興味、価値観を理解できる。</li> <li>・ 社会を知る…進路に対する選択肢を知り、卒業後イメージできる。</li> <li>・ 自分と社会を接続する…社会で必要とされるスキル・姿勢・考え方を修得する</li> <li>・ 就職活動の最新情報を収集し対策出来る力をつける</li> <li>・ 働く事について考え、自身の目標を達成する為の計画を立てられるようにする</li> </ul>   |
| 授業計画の概要           | 就職活動や採用試験の対策を目的とした講義です。授業と並行して就職活動に取り組みましょう。学習した内容を、自分事として考え実践的に取り組む事が重要です。   |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1: 就職活動の傾向と対策総論(オリエンテーション)</li> <li>2: 自己分析① ~エゴグラムを活用した性格分析と長所、短所の分析~<br/>就職適正試験対策 割合・損益算</li> <li>3: 自己分析② ~能力を整理する~<br/>就職適正試験対策 分割払い/代金の清算/同意語・反対語・5択</li> <li>4: 自己分析③ ~興味・価値観を整理する~<br/>就職適正試験対策 速度算・集合 GAB 空欄補充・文の並び換え</li> <li>5: 業界・企業・仕事研究 ~相手(業界・企業・仕事)から自分を見つける~<br/>就職適正試験対策 順列・組み合わせ/確率</li> <li>6: インターンシップ対策① ~インターンシップの基礎知識と応募書類作成の基本~<br/>就職適正試験対策 表の読み取り</li> <li>7: インターンシップ対策② ~応募力を磨く(自己PR・ガクチカ作成編)~<br/>就職適正試験対策 推論</li> <li>8: インターンシップ対策③ ~応募力を磨く(志望動機作成編)~<br/>就職適正試験対策 四則計算/図表の読み取り</li> <li>9: エントリーシート作成総括<br/>就職適正試験対策 模擬テスト</li> <li>10: 面接対策① ~面接選考の基本と大切なポイント~オンライン・対面(集団・個人)~</li> <li>11: 面接対策② 考える力・伝える力を磨く~GD等での論理的思考・表現力のコツ~</li> <li>12: 面接対策③ 模擬グループディスカッション ~実践的に方法を理解する~</li> <li>13: 内定者パネルトーク ~これからの自分の行動について考える~</li> <li>14: ビジネスマナーを学ぶ</li> <li>15: 総括~最新の就職市場と社会動向解説・今後のスケジュール~</li> </ol> |
| 実務経験のある教員         | 人材系企業での企業の採用コンサルティング、自社の新卒採用担当、社内マネジメント経験を活かし、社会に出るために必要な姿勢や考え方、準備方法などを、各テーマ別の講義とワークシート実習などを通じてサポートしていきます。  |
| 授業時間外学習           | 配布資料を読み返し、復習し、何度でも考えて実践することが望ましい。<br>また、WEB サイトや新聞などから、日々の広い範囲のニュースを知ることを習慣にする。   |
| 評価方法              | 授業への出席と3~4回の課題提出で判断します。<br>出席回数10回以下で評価欠格条件となりますので、単位習得できません。<br>課題の未記入部分がある場合は減点対象となります。   |
| 指導方法              | 提出されたレポートで特徴的なコメントや質問があった場合は、翌週に紹介・回答します。   |
| 使用テキスト            | 当日のスライドをKDUポータルのクラスプロファイルを使用して配布します。  |
| 参考テキスト・URL        |   |
| 各自準備物             | 筆記用具・携帯電話   |
| 実習費               |   |
| その他               | 講義を聴いて自ら課題の回答を考え、作成する講義です。<br>上記の授業計画は、受講者の状況や新型コロナ感染対策等で変更することがあります。<br>ワークシートの未記入部分がある場合は減点対象となります。   |

|      |            |       |           |
|------|------------|-------|-----------|
| 科目名称 | キャリアデザインC② | 授業コード | 20201645  |
| 担当教員 | 前田 博美      |       |           |
| 単位数  | 2          | 授業形態  | 講義        |
| 年次   | 3          | 開講年度  | 2023      |
| 関連資格 |            | 科目分類  | 学修基礎/社会参加 |
|      |            | 開講学期  | 前期        |

|                   |   |
|-------------------|---|
| 授業実施方法            | 対面授業  |
| 使用するアプリ等          | Microsoft365 (Office365)  |
| 履修制限等             |   |
| 授業の目的と到達目標 (学習成果) | <p>■授業の目的 ・就職試験に向けて、自ら実践できる力をつける</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分を知る…自分の能力、興味、価値観を理解できる。</li> <li>・社会を知る…進路に対する選択肢を知り、卒業後をイメージできる。</li> <li>・自分と社会を接続する…社会で必要とされるスキル・姿勢・考え方を修得する</li> <li>・就職活動の最新情報を収集し対策出来る力をつける</li> <li>・働く事について考え、自身の目標を達成する為の計画を立てられるようにする</li> </ul>  |
| 授業計画の概要           | 就職活動や採用試験の対策を目的とした講義です。授業と並行して就職活動に取り組みましょう。学習した内容を、自分事として考え実践的に取り組む事が重要です。   |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1: 就職活動の傾向と対策総論(オリエンテーション)</li> <li>2: 自己分析① ~エゴグラムを活用した性格分析と長所、短所の分析~<br/>就職適正試験対策 割合・損益算</li> <li>3: 自己分析② ~能力を整理する~<br/>就職適正試験対策 分割払い/代金の清算/同意語・反対語・5択</li> <li>4: 自己分析③ ~興味・価値観を整理する~<br/>就職適正試験対策 速度算・集合 GAB 空欄補充・文の並び換え</li> <li>5: 業界・企業・仕事研究 ~相手(業界・企業・仕事)から自分を見つける~<br/>就職適正試験対策 順列・組み合わせ/確率</li> <li>6: インターンシップ対策① ~インターンシップの基礎知識と応募書類作成の基本~<br/>就職適正試験対策 表の読み取り</li> <li>7: インターンシップ対策② ~応募力を磨く(自己PR・ガクチカ作成編)~<br/>就職適正試験対策 推論</li> <li>8: インターンシップ対策③ ~応募力を磨く(志望動機作成編)~<br/>就職適正試験対策 四則計算/図表の読み取り</li> <li>9: エントリーシート作成総括<br/>就職適正試験対策 模擬テスト</li> <li>10: 面接対策① ~面接選考の基本と大切なポイント~オンライン・対面(集団・個人)~</li> <li>11: 面接対策② 考える力・伝える力を磨く~GD等での論理的思考・表現力のコツ~</li> <li>12: 面接対策③ 模擬グループディスカッション ~実践的に方法を理解する~</li> <li>13: 内定者パネルトーク ~これからの自分の行動について考える~</li> <li>14: ビジネスマナーを学ぶ</li> <li>15: 総括~最新の就職市場と社会動向解説・今後のスケジュール~</li> </ol> |
| 実務経験のある教員         | メーカーの経営企画及び人事部及び独立してからの採用業務での経験を活かし、実際の社会に出るために必要な知識や心構えを実際の就職活動に結び付け部分として、具体的に身につく講義及びグループワークを行う。  |
| 授業時間外学習           | 配布資料を読み返し、復習し、何度も考えて実践することが望ましい。<br>また、WEB サイトや新聞などから、日々の広い範囲のニュースを知ることを習慣にする。  |
| 評価方法              | 授業への出席と3~4回の課題提出で判断します。<br>出席回数10回以下で評価欠格条件となりますので、単位習得できません。<br>課題の未記入部分がある場合は減点対象となります。   |
| 指導方法              | 提出されたレポートで特徴的なコメントや質問があった場合は、翌週に紹介・回答します。   |
| 使用テキスト            | 当日のスライドを KDU ポータルのクラスプロファイルを使用して配布します。  |
| 参考テキスト・URL        |   |
| 各自準備物             | 筆記用具・携帯電話   |
| 実習費               |   |
| その他               | 講義を聴いて、自ら課題の答えを考え、作成する講義です。<br>上記の授業計画は、受講者の状況で変更することがあります。<br>ワークシートの未記入部分がある場合は減点対象となります。<br>ワークシート提出を5回以上、未提出の者は失格とみなし、評価の対象にはならないので注意すること。  |